

# 景況動向指数(Diffusion Index)

(2023年7月～9月)

(商業車08)業態別

(商業車08)業態別



経営発達支援事業資料

長浜市商工会

# 調 査 対 象 事 業 所

長浜市商工会 管内100事業所

製 造 業 ( 2 0 事 業 所 )

建 設 業 ( 2 0 事 業 所 )

卸 小 売 業 ( 2 0 事 業 所 )

飲 食 宿 泊 業 ( 2 0 事 業 所 )

サ ー ビ ス 業 ( 2 0 事 業 所 )

\* 調査期間 2023年7月～9月

この資料は、経営発達支援事業の地域の動向調査に関することの目的で実施した資料です。

## \* D I とは？

本報告書の中で%以外に用いているD I 指数とは、ディフュージョン・インデックス（景気動向指数）の略です。

各調査項目について増加（上昇、好転、長期化）企業割合から減少（低下、悪化、短期化）企業割合を差し引いた値を示します。

D I が+（プラス）なら強気（楽観）、-（マイナス）なら弱気（悲観）を表します。

例えば売上高で増加企業 50%、不変企業 30%、減少企業 20%の場合、

D I 指数・・・ $50\% - 20\% = 30$  となり、全体として経営者の売上に対する強気の度合いを表しています。

コメント

製造業の業績判断にかかるDIは、回復傾向から失速の状況であり、原材料価格上昇と人材不足が先行きを不安にしている。

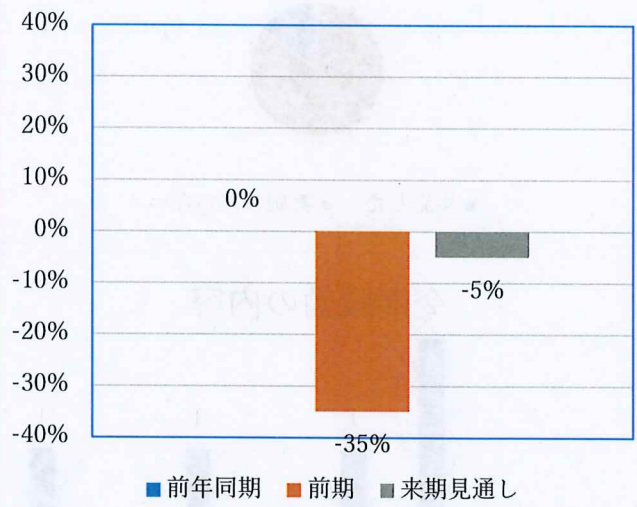
売上DIは前年同期±0、前±0期▲35と足元で悪化している、来期見通しも▲5と低調な状況である。資金繰りDIについては前年同期±0、前期+5来期±0と拮抗する状況が続いている。原材料仕入単価DIの上昇が顕著で、前年同期+60、来期見通しとも+50と原価上昇の影響を上げる企業が多い。従業員増減DIは前年同期±0、来期見通し+5と若干の増員の動きである。

設備投資については低調ながら今期、来期とも生産設備への投資を行う企業があり、直面している経営の問題として、材料価格情報、従業員確保難、経費の増加を上げる企業が多い。個別の声として、中国との関係悪化により輸出減少の懸念、中国の受注も低迷しており、仕事が回ってこないという中国関連の懸念の声が見られる。冷凍食材の売上が伸びているが従業員確保に苦労している。下請けまで仕事を回せないという事情で受注減少する。繁忙期の従業員が見つからない。など受注と人員についての悩みの声が多い。テレビに取り上げられてお中元お盆の売上が上がったとの声もあった。

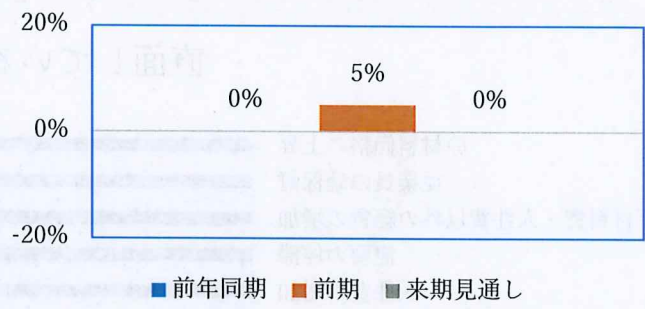
売上推移（千円）



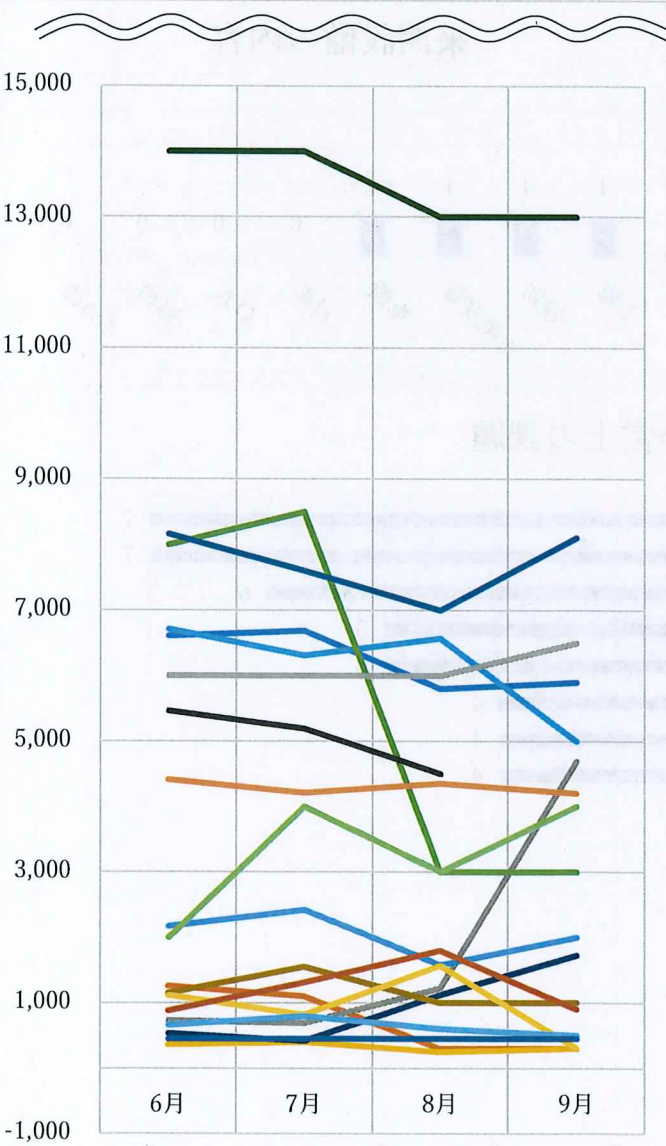
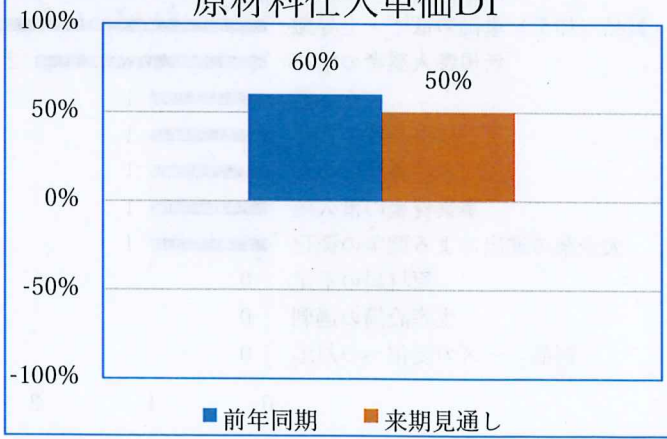
売上DI

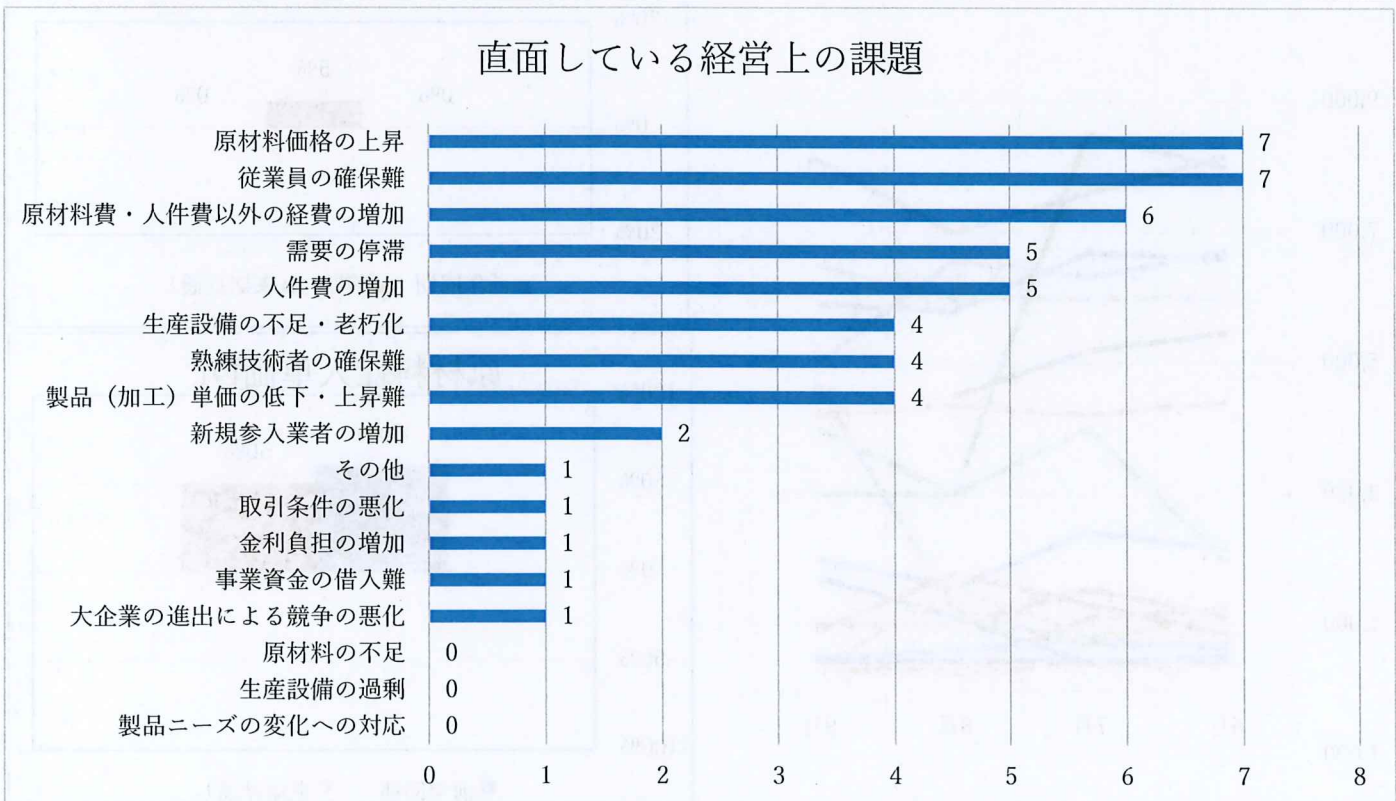
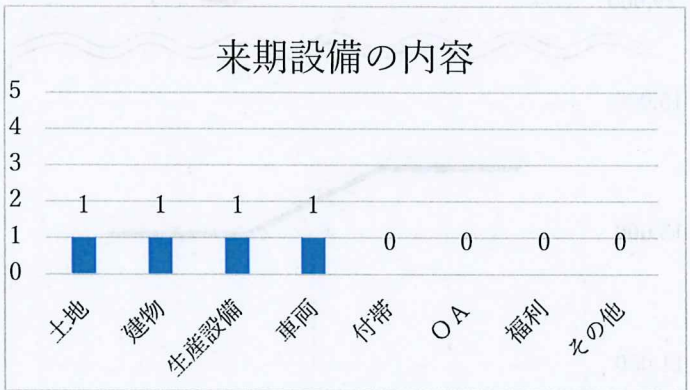
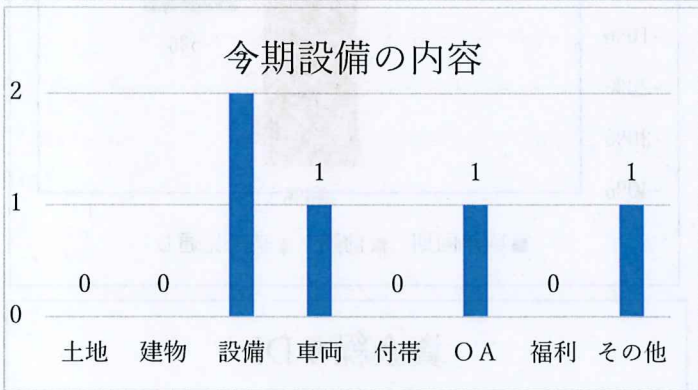
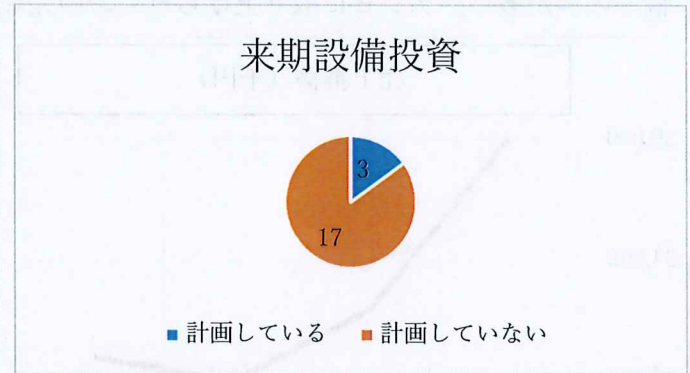
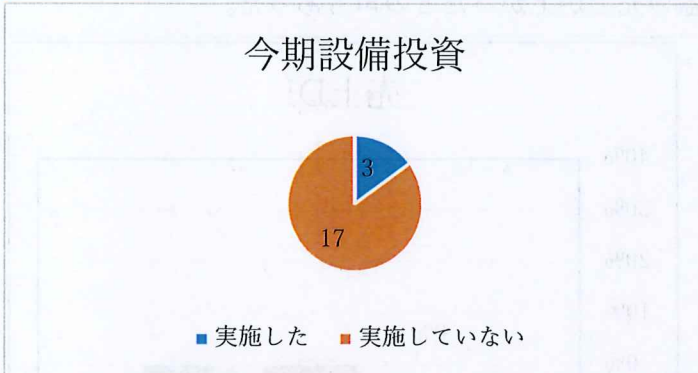
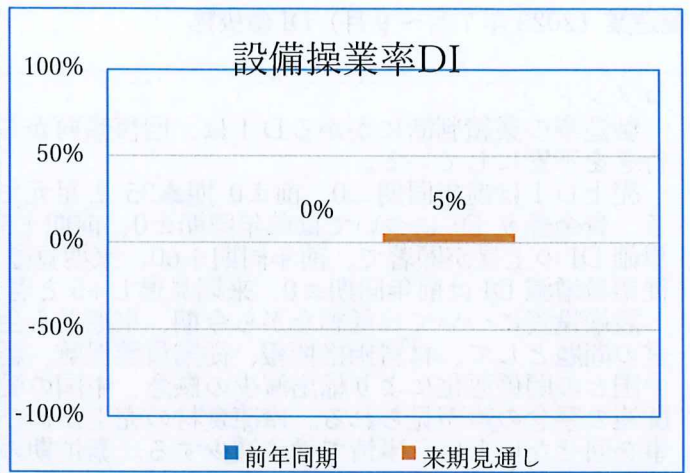
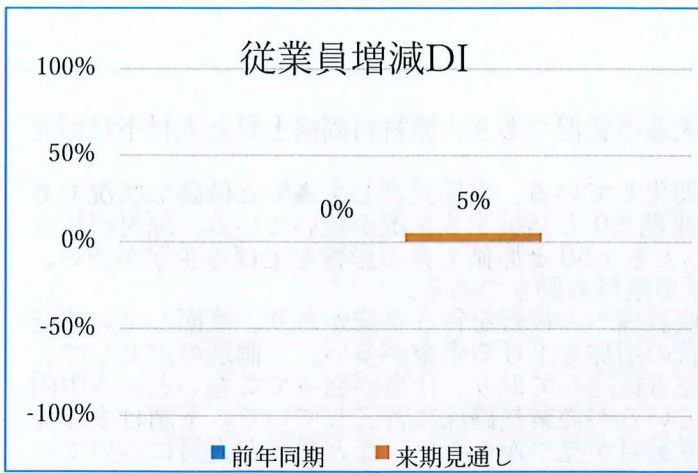


資金繰りDI



原材料仕入単価DI





コメント

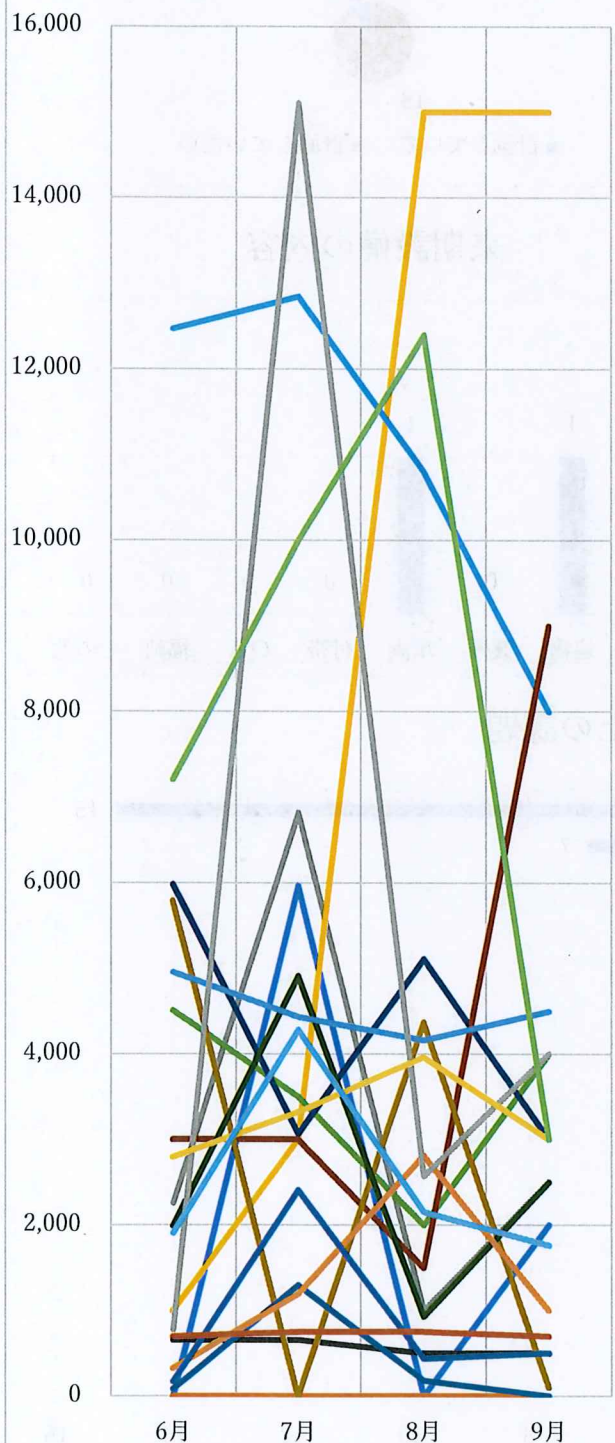
建設業の業況は、他業種に比較して低調な状況が続いている。原材料価格等経費の増加で採算面資金繰り面とも厳しい状況である。

完成工事高DIは前年同期▲20、前期▲35、今後の見通しは▲30と足元も先行きも低調である。

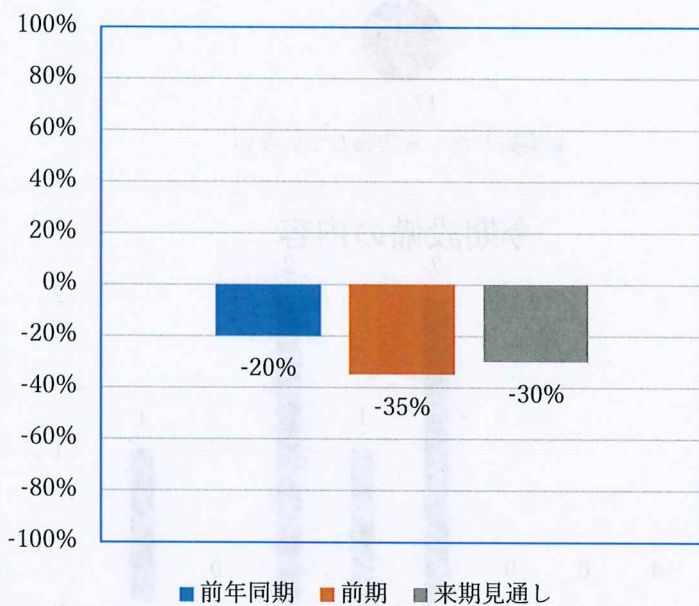
原価上昇を上げる声が続く引き続き多く、前年同期で値上がり+75と大半の企業において材料の値上がりの影響があると回答している、来期見通しも+70と依然として上昇を懸念する声が増えている。採算DIも前年同期▲40、来期も▲40と不安の声が多い。資金繰りも前年同期▲35、前期比▲35、見通しは▲30と資金繰りが厳しい状況が続いている。設備投資も低調である。

直面している経営の課題として、材料価格、経費の上昇を上げる企業が多く、下請けや技術者の不足を上げる声も多く、厳しい経営環境が浮き彫りとなっている。個別の声としては、着工件数は順調であるが、県南部の同業者から減少傾向を聞いており、今後の懸念される。物価が上がり見積もり金額に転嫁したところ着工見送りと良くない流れになっている。国の補助事業を活用した20～200万円の請負が好調で人気商品が3か月待ちとなっている。景気の悪さをひしひしと感じているといった声があった。

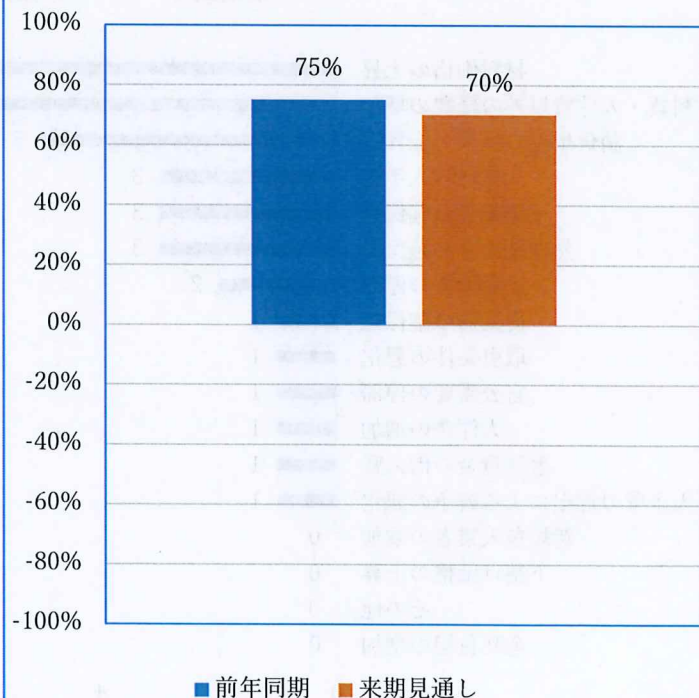
売上推移（千円）

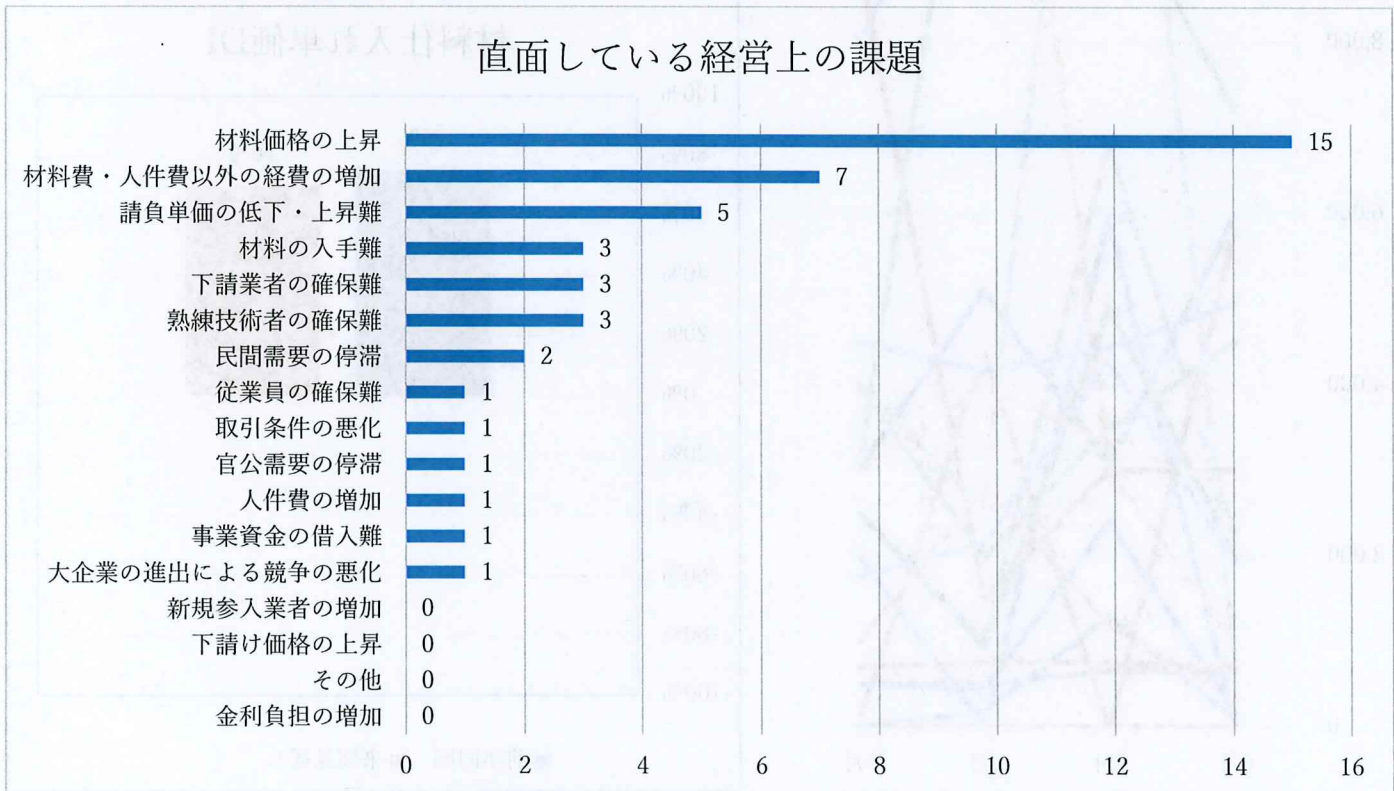
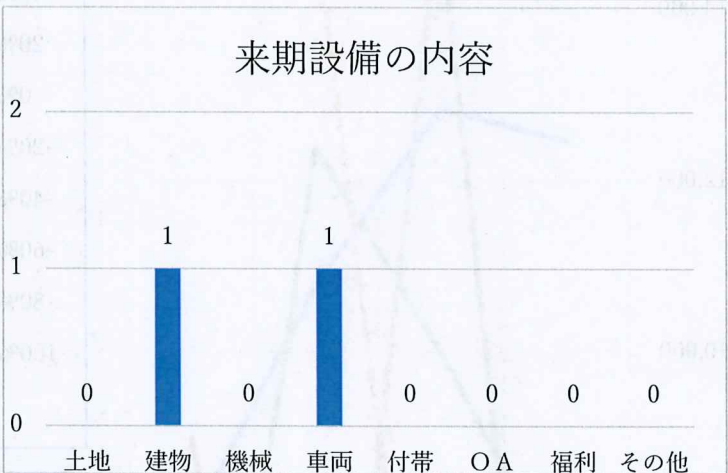
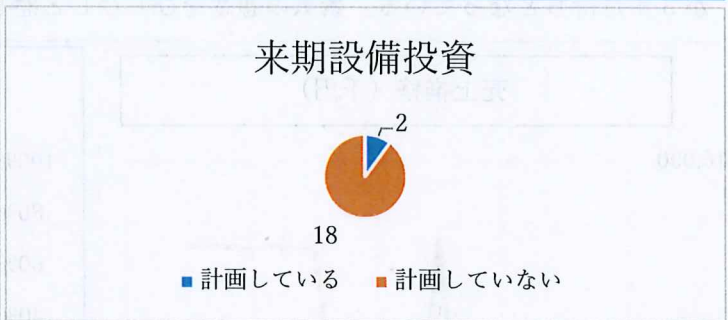
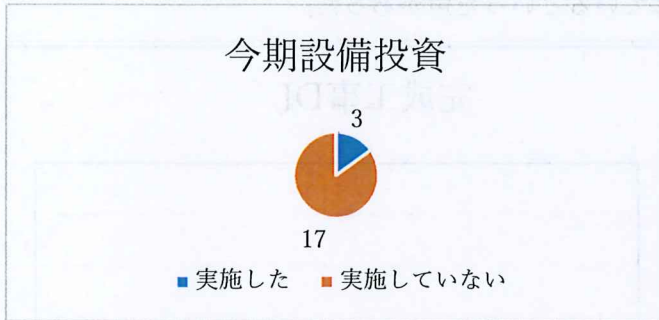
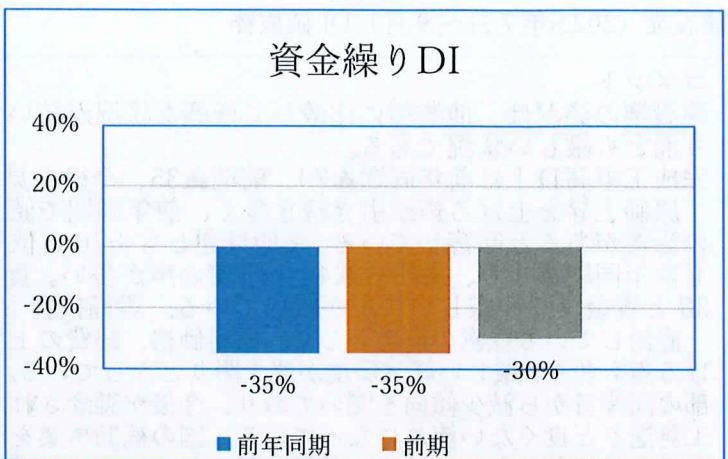
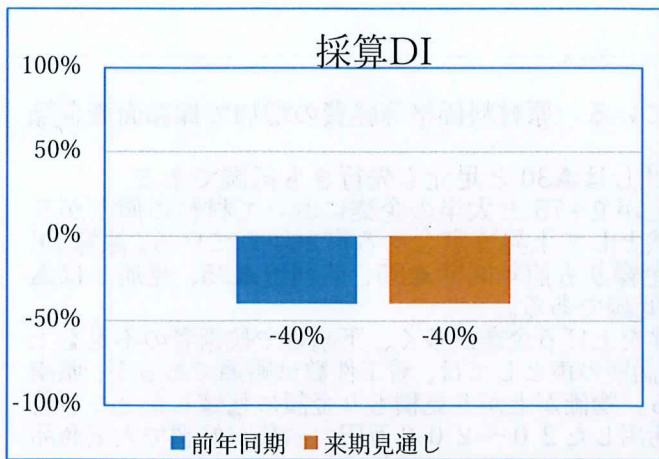


完成工事DI



材料仕入れ単価DI



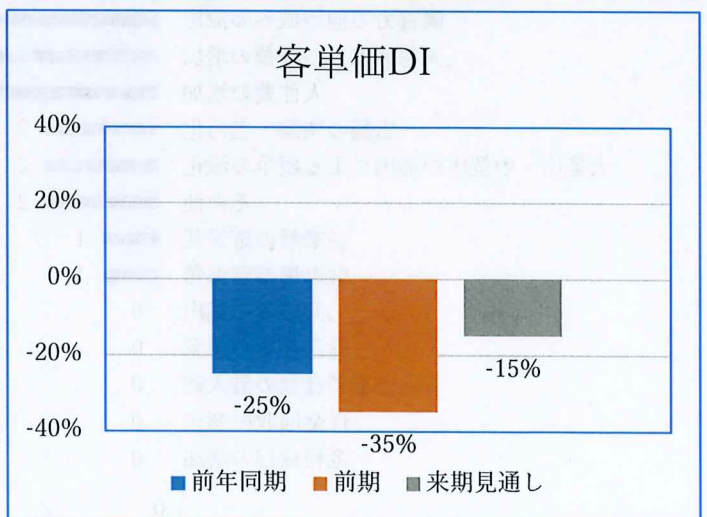
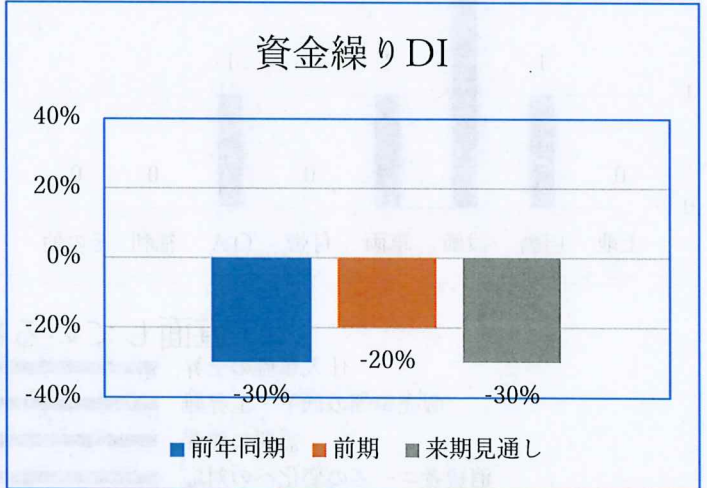
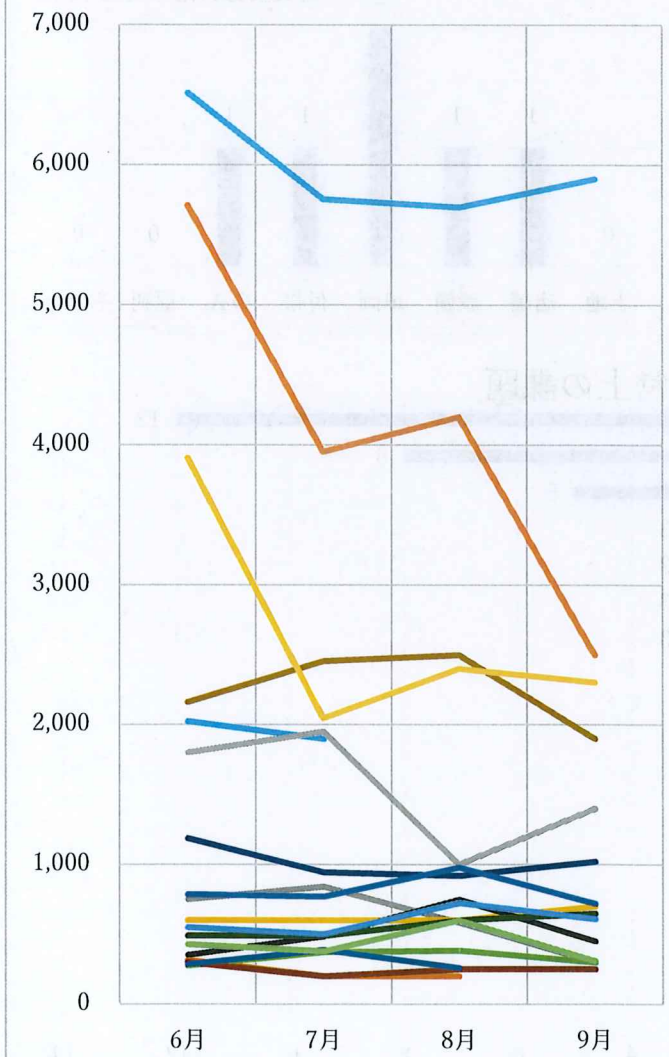
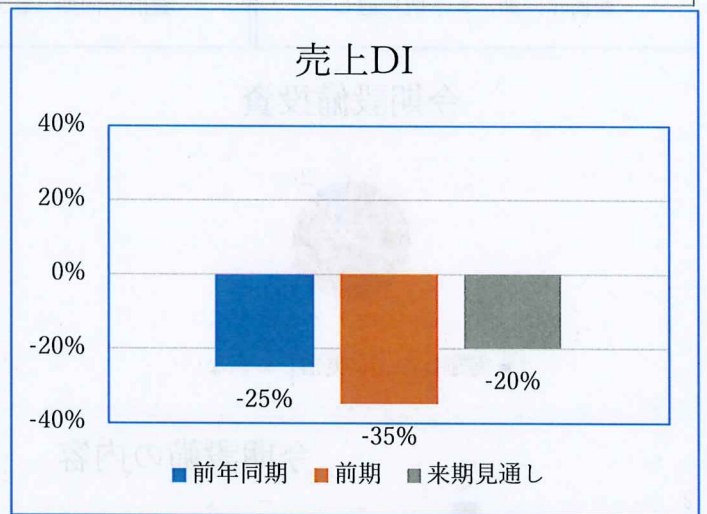
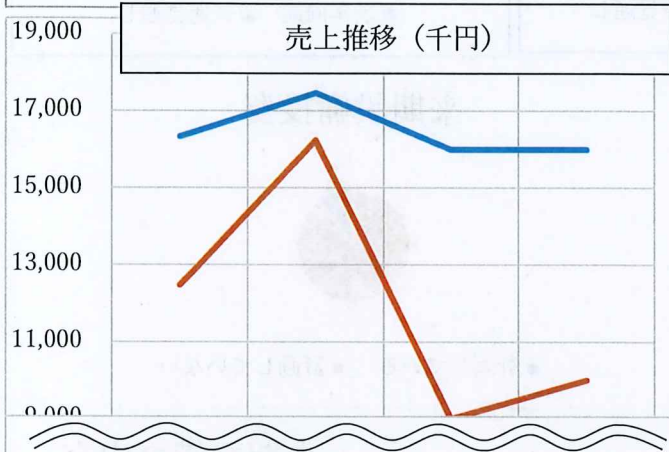


卸小売業（2023年7月～9月）DI 値抜粋

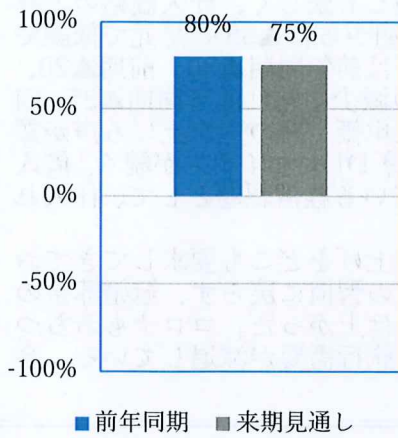
コメント

卸小売業の業況に関するDIは、低調な状況が続いており先行きの見通しも厳しく、仕入価格の上昇で資金繰りや資金調達不安も続いている。売上DIは前年同期▲25、前期からは▲35と足元で低調であり。来期見通しも▲20と明るい兆しに乏しい。資金繰りDIについては前年同期▲30、前期▲20、来期も▲30で資金繰り面に不安を抱える声依然として大きい。客単価の減少傾向は前年同期▲25、前期▲35と低調で、来期見通しも▲15と回復が見えない状況である。仕入単価上昇の声を上げる声が顕著で前年同期+80、来期見通しも+75と原価上昇が収益を圧迫しており採算DIもマイナスが続く。借入難度の前年同期、来期見通しとも▲10と不安の声が続いている。直面している経営課題として、仕入れ価格上昇、販売単価低下と収益低下の課題が顕著である。

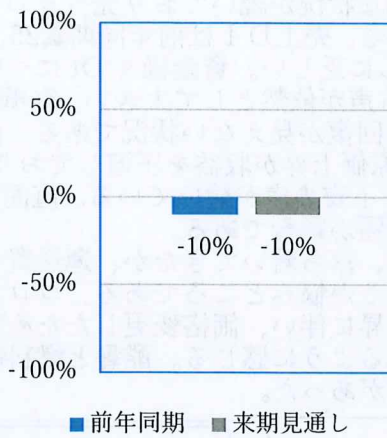
個別の声として、仕入単価の値上げは、落ち着いてきたが、運送費の値上げをどこも要求してきており、それによって価格の値上げを検討するか悩みどころである。コロナ前の習慣に戻らず、冠婚葬祭の風習が変わってしまった。仕入単価の上昇に伴い、価格変更したため売上は上がった。コロナもおちついてきて、遠方からのお客様も増えているように感じる。酷暑と燃料高で旅行需要が減退している。会食の需要がなかなか回復しないという声があった。



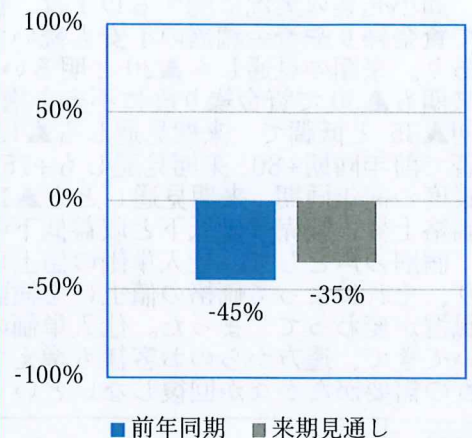
### 商品仕入単価DI



### 長期借入難度DI



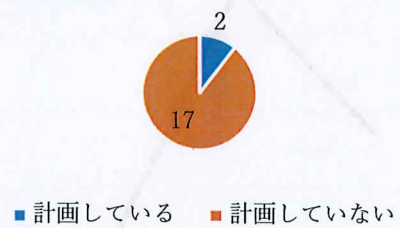
### 採算（経常利益）DI



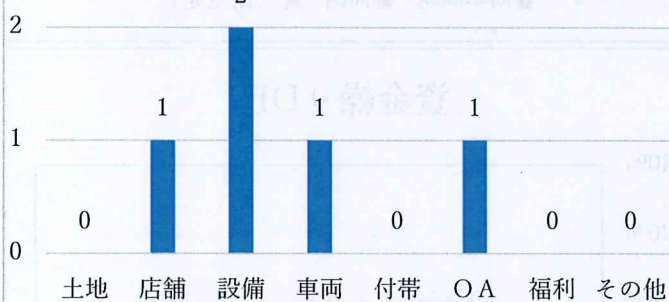
### 今期設備投資



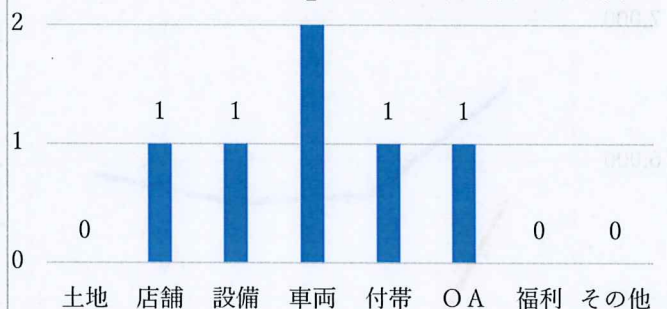
### 来期設備投資



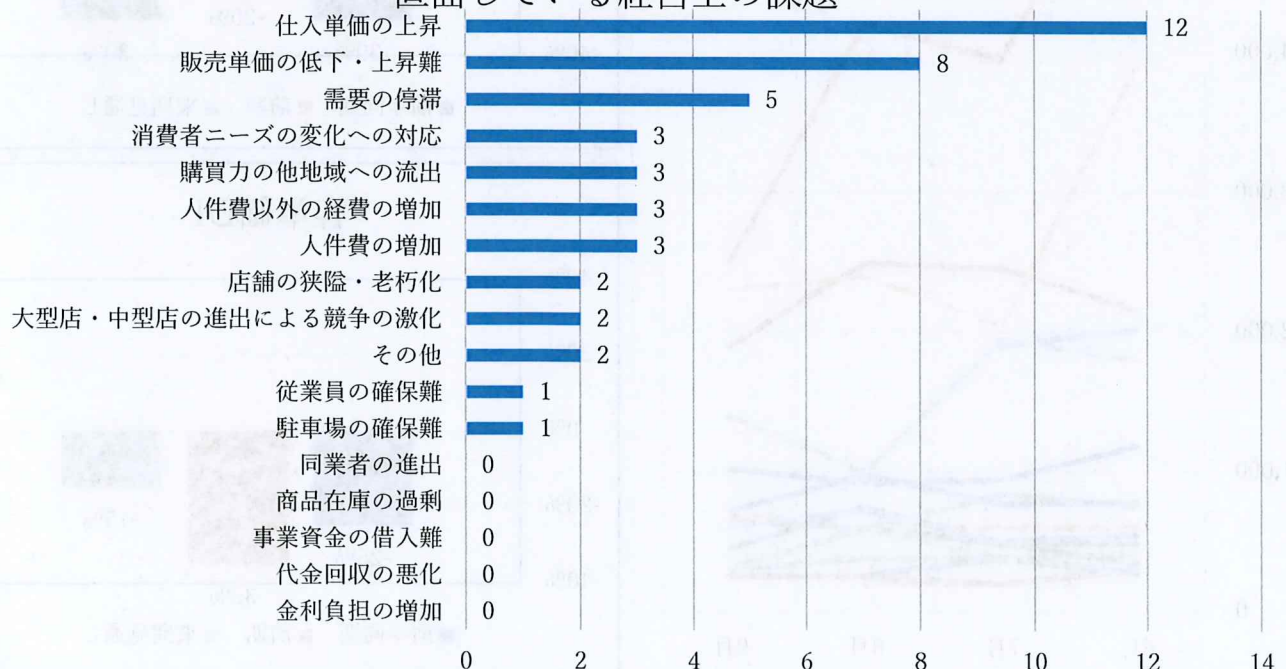
### 今期設備の内容



### 来期設備の内容



### 直面している経営上の課題





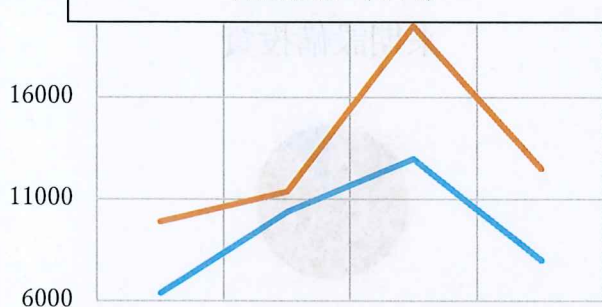
飲食宿泊業（2023年7月～9月）DI 値抜粋

コメント

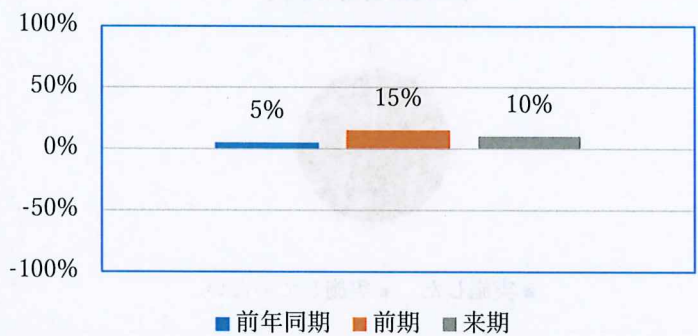
飲食宿泊業の業況に関するDIは、5類変更後から続いた売上回復の勢いは弱まっているものの、他業種より堅調な推移である。材料仕入れ単価の上昇により採算面は厳しい状況である。売上DIは前年同期+5と緩やかな回復が見受けられ、前期+15と夏場の集客で伸びている、来期は+10と堅調である。客単価DIは前年同期+15、前期+20、来期は+15と回復傾向が続いている。利用客数DI前年同期+20、前期▲10、今後の見通しは+15とおおむね堅調な状況が見受けられる。資金繰りDIは前年同期▲25前期▲30来期▲25と資金繰り悪化が顕著である。仕入単価の上昇が前年同期+90来期見通しとも+80と原価上昇の状況が収益を圧迫しており、採算は前年同期▲20来期見通し▲30と厳しい見通しである。設備投資は低調である。経営課題には原価、経費の増加を上げる事業者が多い。

個別の声として、宿泊に関して、前年同期ほどの勢いはなくなり、売上額の減少となった。この傾向は、しばらく続くものと考えられる。また、食材にLPガス料金の高騰が収益面に影響を与えている。前年同期に比べ、業況が大きく好転した要因は、思い切って商品単価を上げたことです。業況好転の要因は出店日数が今期の方が多かったからである。本業と別にアルバイトに出るか考えるほど大変な業況である。コロナ以前と比較して法事の人数減少が顕著といった声があった。

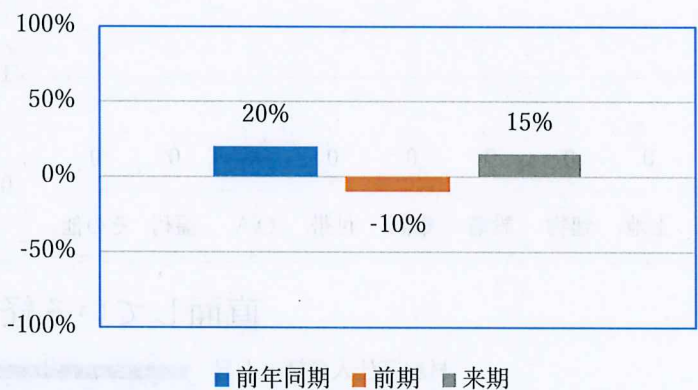
売上推移（千円）



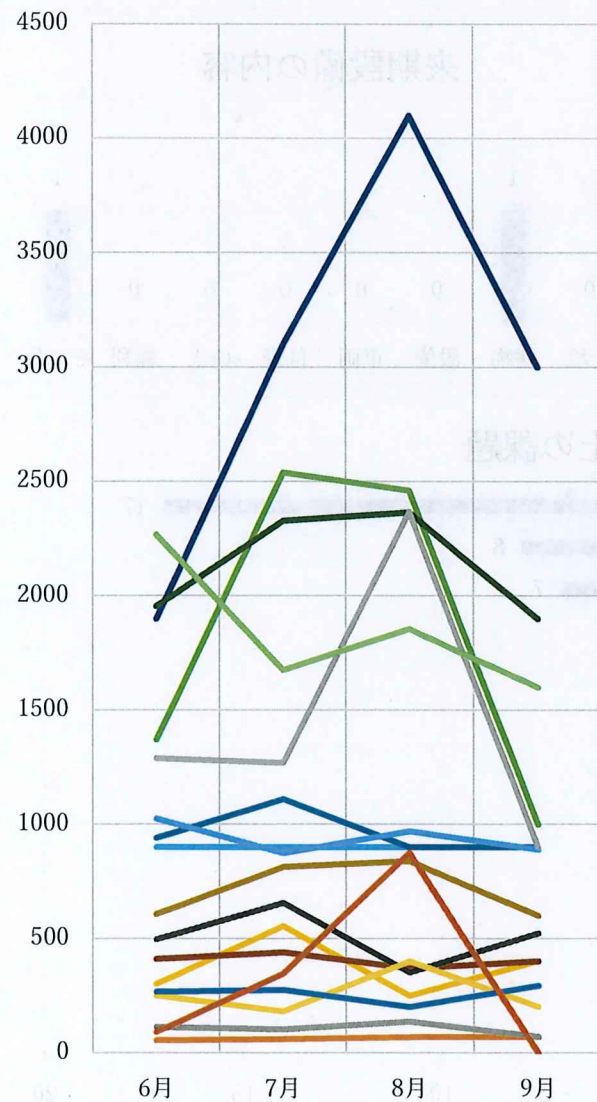
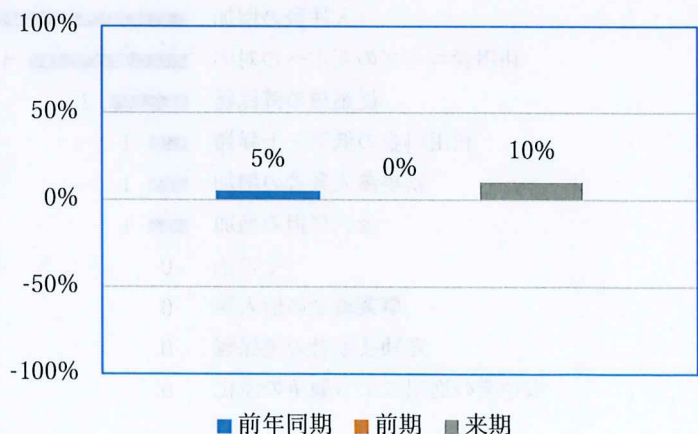
売上DI



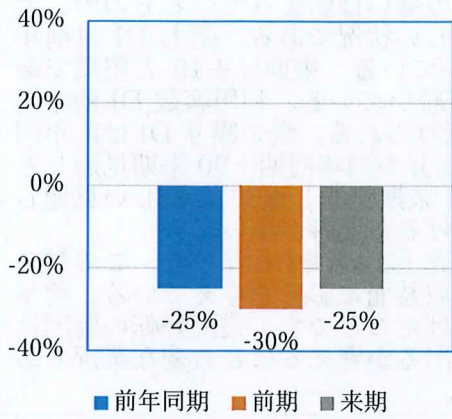
客単価DI



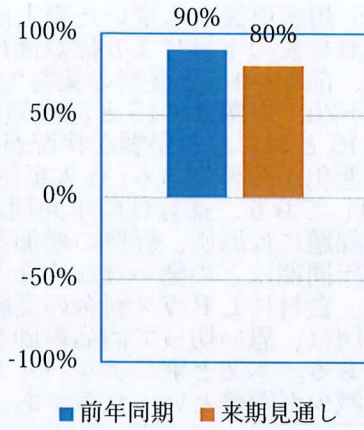
利用客数DI



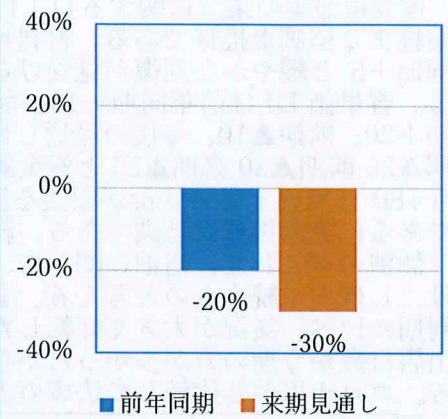
### 資金繰りDI



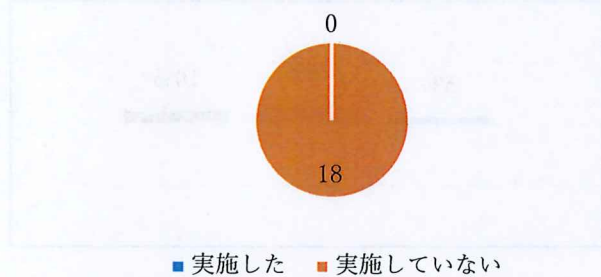
### 仕入単価DI



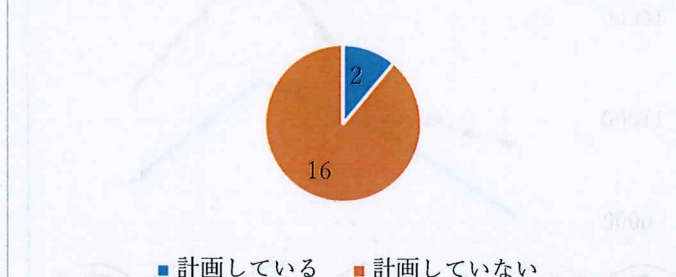
### 採算（経常利益）DI



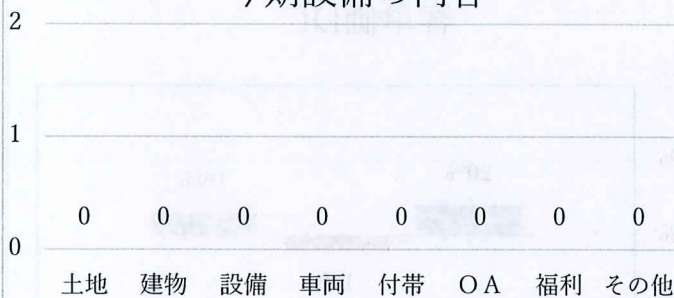
### 今期設備投資



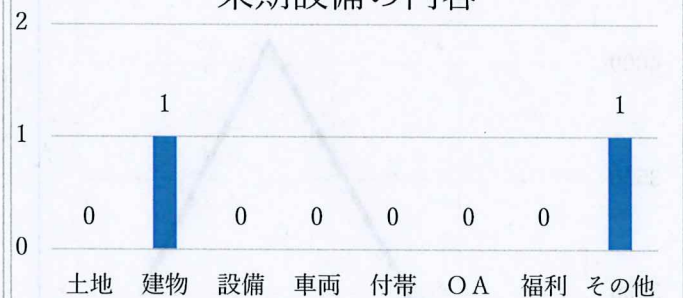
### 来期設備投資



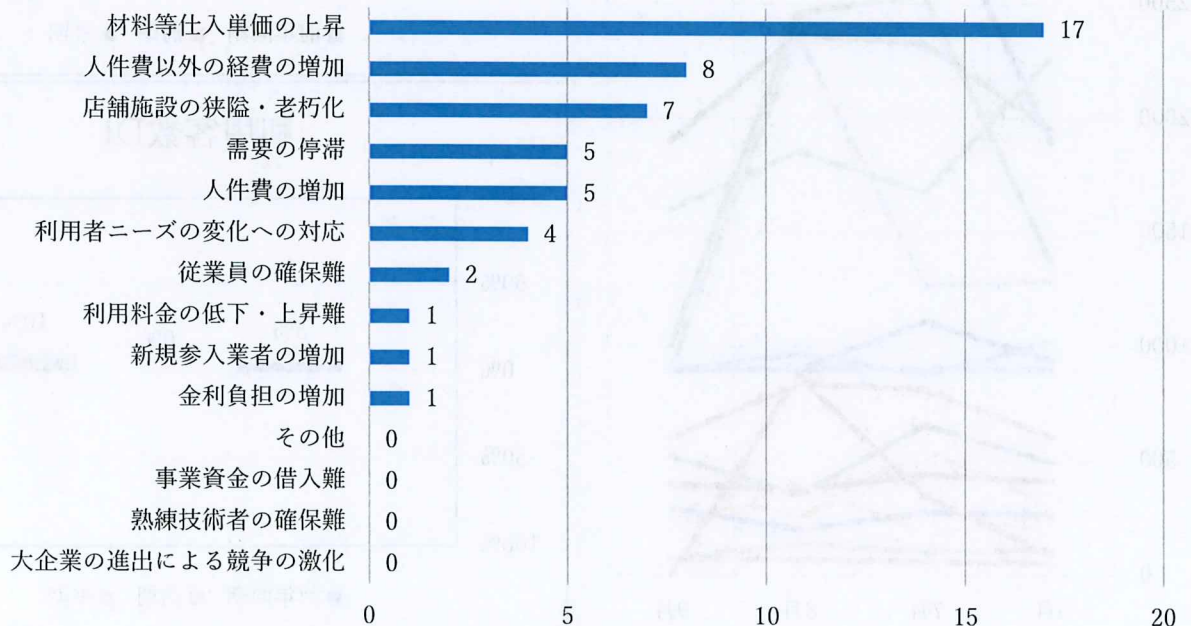
### 今期設備の内容



### 来期設備の内容



### 直面している経営上の課題

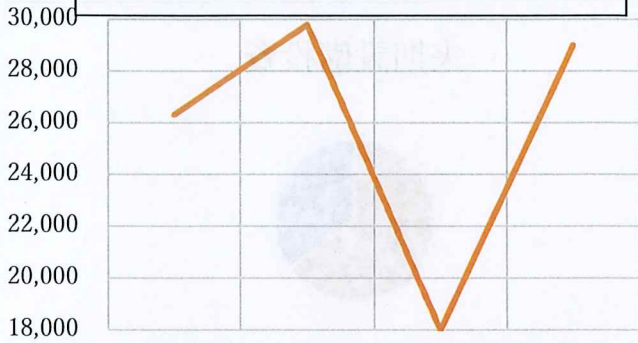


サービス業（2023年7月～9月）DI 値抜粋

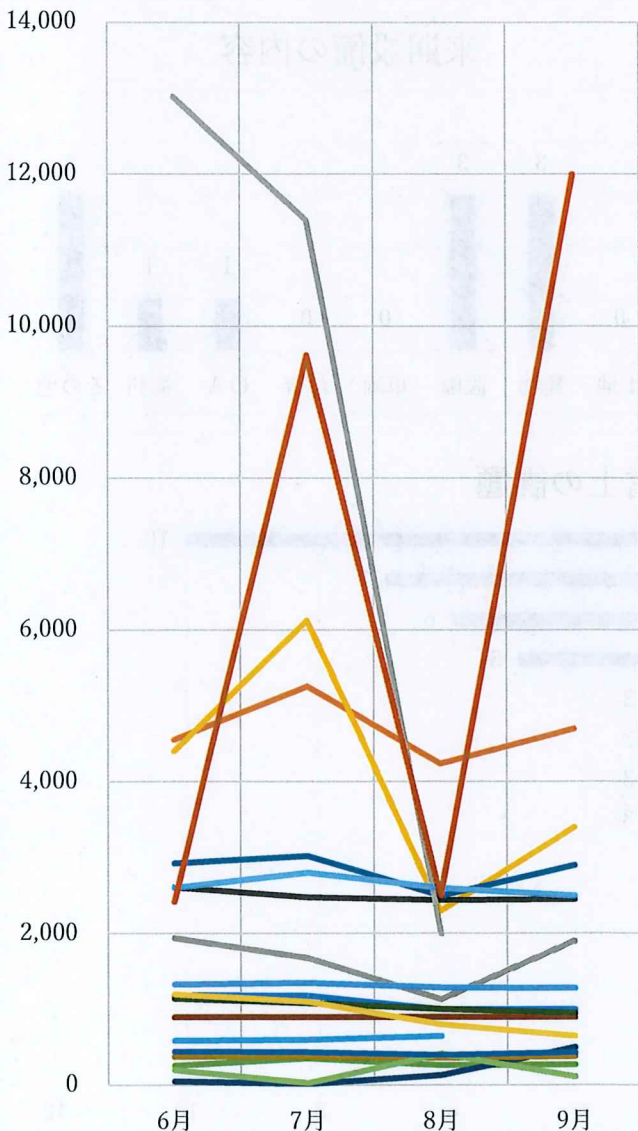
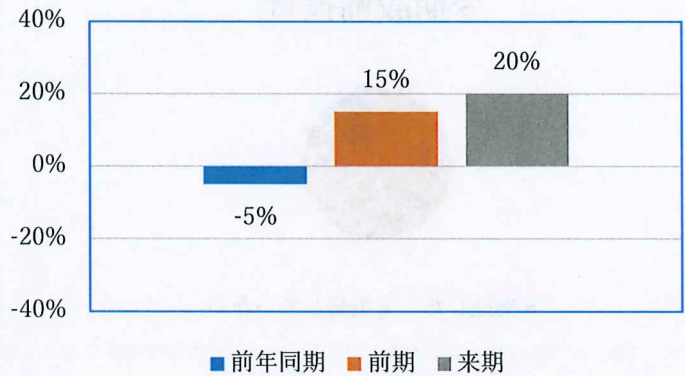
コメント

サービス業の業況は原価高により収益面、資金繰り面は厳しい環境が続くが、前期から業績回復の傾向が続いている。売上DIは前年同期▲5、前期+15と来期見通し+20と足元で回復している。客単価DIは前年同期+10、前期+5、今後の見通しも+15と勢いは落ちているが堅調な回復状況である。客数DIは前年同期▲20ながら前期±0、今後の見通しは+10と若干の改善傾向である。資金繰りについて前年同期▲10、前期▲5来期は+5と若干の改善傾向である。仕入単価DI前年同期+65来期見通し+70と原価上昇の傾向が続く。採算DIの前年同期▲20、来期見通し▲5となりコスト高が採算面に悪影響を与えている。来期多岐にわたる設備投資を計画している企業が多い。個別の声としては、世の中、値上げ基調の中で当店も値上げを検討しているが、中々値上げに踏み切れない。前年同期と比較すると好転しているが、前期比ではあまり伸びなかった、従業員の減少で予約数が限られてしまうことや、近隣の店舗の増加などで競合が発生したことにある。物価上昇の中で、整体院の果たす役割が贅沢な存在になっているのか、年金生活をされている世帯の層が来院される事が減ってきている、などの声があった。

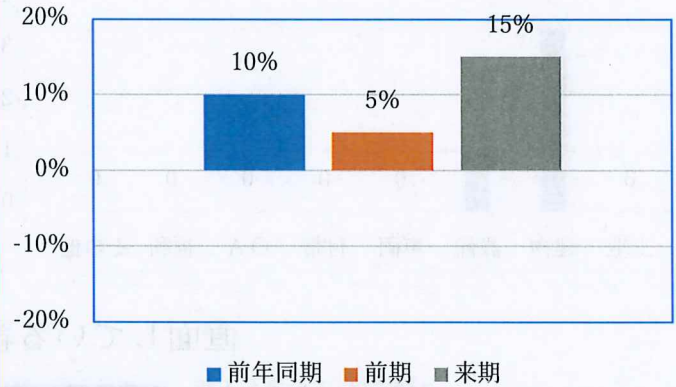
売上推移（千円）



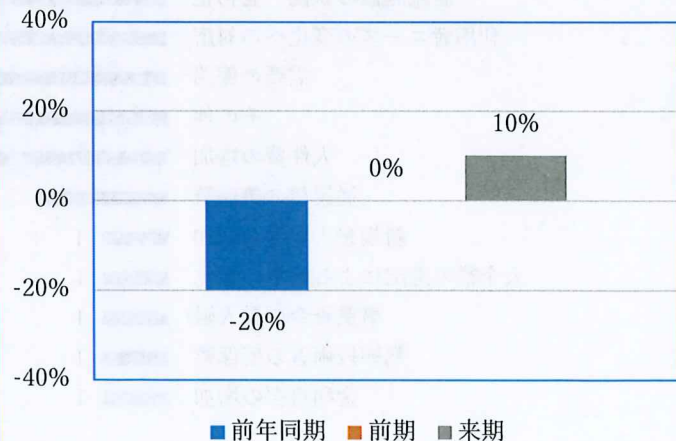
売上DI



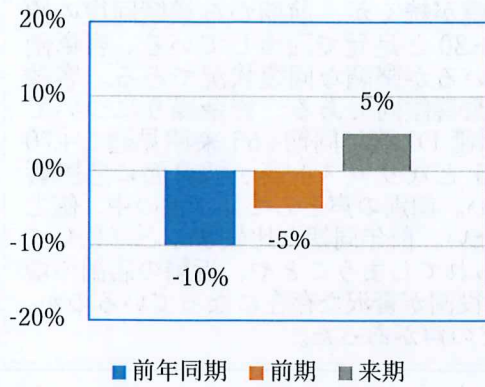
客単価DI



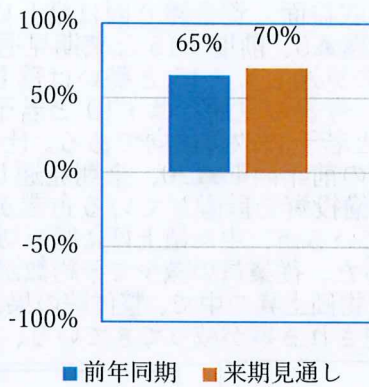
利用客数DI



### 資金繰りDI



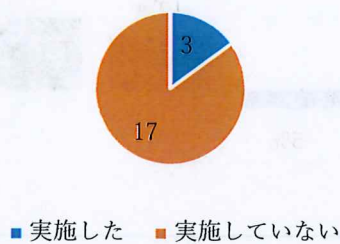
### 仕入単価DI



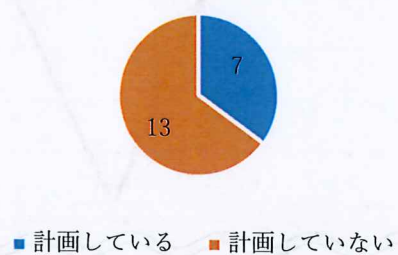
### 採算 (経常利益) DI



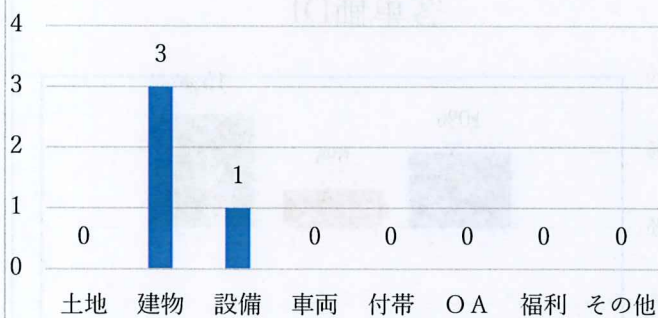
### 今期設備投資



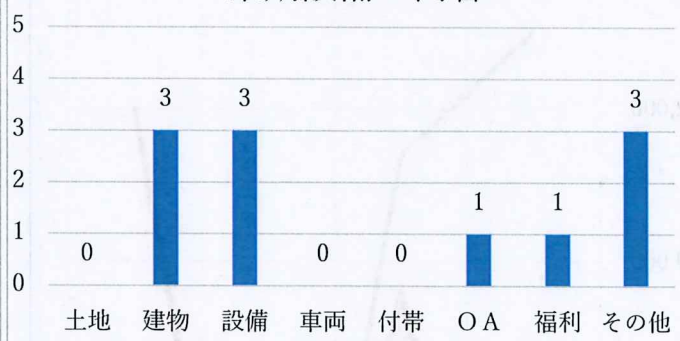
### 来期設備投資



### 今期設備の内容



### 来期設備の内容



### 直面している経営上の課題



## 小規模企業景気動向調査 [2023年8月期調査]

～前年から改善は続くも、コスト高と酷暑の影響から足踏み状態の小規模企業景況～

### <産業全体>

8月期の産業全体の業況は、全DIが悪化し、売上額・採算・資金繰りDIは小幅に悪化、業況DIは大幅に悪化した。経済活動はコロナ禍前に戻りつつあるものの、酷暑や物価高が妨げとなり需要が伸び切らず、足踏み状態となっている。コスト高による利益の圧迫が続き事業者からの融資相談の深刻さが増している、条件変更の相談も多くなっている、との厳しいコメントも見られた。

DI	7月	8月	前月比
売上額	128	89	▲39
採算	▲29.5	▲32.7	▲3.2
資金繰り	▲24.8	▲28.0	▲3.2
業況	▲14.1	▲19.1	▲5.0

### <製造業> 原材料供給の不安定さから、稼働率が悪化している製造業

製造業は、売上額・業況DIが大幅に悪化し、資金繰りDIが小幅に悪化した。食料品関連は、売上額DIが小幅に悪化、業況DIは大幅に悪化した。酷暑による作物不良で原材料の供給に影響が出ている。繊維関連は、採算DIが大幅に改善したが、売上額DIは小幅に悪化した。仕入れ単価の上昇が緩やかに始まり始めたが、需要に頭打ち感がある、とのコメントがあった。機械・金属関連は、全DIが大幅に悪化し、売上額・業況DIはともに2桁ポイント悪化した。鉄鋼材等の高騰や一部部品不足で完成品の生産が困難、受注が減り取引先に依頼し仕事を確保している状況、とのコメントがあった。

DI	7月	8月	前月比
売上額	14.3	6.8	▲7.5
採算	▲36.2	▲36.4	▲0.2
資金繰り	▲27.4	▲29.8	▲2.4
業況	▲15.7	▲23.8	▲8.1

### <建設業> 人手不足の厳しさが増し、職人・下請け業者を取り合う建設業

建設業は、全DIが悪化し、採算DIは小幅に悪化、売上額・資金繰り・業況DIが大幅に悪化した。お盆時期の受注減少に加え、酷暑による工期延長が発生している。人手不足が顕著であり、半年先にある1日だけの工事の人材すら確保できない、原材料費と人件費の上昇で利益確保が困難とのコメントも見られた。人手不足による受注機会ロスも続いており、同業他社で職人・下請け業者の取り合いとなっている。

DI	7月	8月	前月比
売上額	12.7	7.6	▲5.1
採算	▲34.6	▲37.9	▲3.3
資金繰り	▲31.6	▲38.4	▲6.8
業況	▲16.3	▲23.4	▲7.1

### <小売業> 業種の好不況を酷暑が左右する小売業

小売業は、売上額・採算・業況DIがわずかに悪化した。コスト高騰の影響は続いているが、一部業種ではイベント需要等での売上が回復している。衣料品関連は、依然として酷暑から秋物の動きが悪く、売上額・採算が小幅に悪化、業況DIが大幅に悪化した。食料品関連は、お盆期間での利用客の増加から、全DIが改善し、採算・資金繰りDIが小幅に改善した。耐久消費財関連は、原油価格高騰で仕入れ価格が上昇しており、売上額DIが小幅に悪化、採算DIが大幅に悪化した。

DI	7月	8月	前月比
売上額	4.7	2.8	▲1.9
採算	▲34.6	▲35.9	▲1.3
資金繰り	▲30.3	▲29.5	0.8
業況	▲23.2	▲24.5	▲1.3

### <サービス業> エネルギー価格等のコスト高で、採算悪化が顕著なサービス業

サービス業は、全DIが悪化し、資金繰り・業況DIが小幅に悪化、採算DIが大幅に悪化した。バカンスシーズンではあるものの、酷暑で客足が伸びなかった。旅館関連は、インバウンド需要を中心に、売上額DIはわずかに改善した一方で、採算DIが大幅に悪化。エネルギー価格に加え、食材の値上がり等もコスト増加の一端となっている。クリーニング関連は、全DIが悪化し、採算・資金繰り・業況DIが大幅に悪化。理・美容関連は、全DIが悪化し、特に採算DIが大幅に悪化した。

DI	7月	8月	前月比
売上額	19.4	18.3	▲1.1
採算	▲12.7	▲20.7	▲8.0
資金繰り	▲9.8	▲14.1	▲4.3
業況	▲1.1	▲4.4	▲3.3

#### 調査概要

・調査対象: 全国約300商工会の経営指導員

・調査時点: 2023年8月末

・調査方法: 対象商工会経営指導員による調査票への選択記入式

※DI(景気動向指数)は各調査項目について、増加(好転)企業割合から減少(悪化)企業割合を差し引いた値を示す。

